

註(4) 論文。

- (7) 『続日本紀』 天平六年十一月丁丑(二十日) 条、同十八年六月己亥(十八日) 条。
- (8) 山下有美氏、前掲註(4) 論文。
- (9) 以下、聖語藏經卷の画像は、丸善雄松堂の聖語藏經卷DVDによる。
- (10) 皆川完一氏、前掲註(6) 論文。
- (11) 皆川完一氏、前掲註(6) 論文。以下、皆川氏の見解は当論文による。
- (12) 以下、正倉院文書の画像は、宮内庁正倉院事務所ホームページより転載する。
- (13) 山下有美「五月一日経における別生・偽疑・録外経の書写について」(『市大日本史』三、二〇〇〇年)、同氏、前掲註(4) 論文。
- (14) 『続日本紀』 天平五年正月庚戌(十一日) 条。

(本所学術専門職員)

速報

「言継卿記」の重要文化財指定について

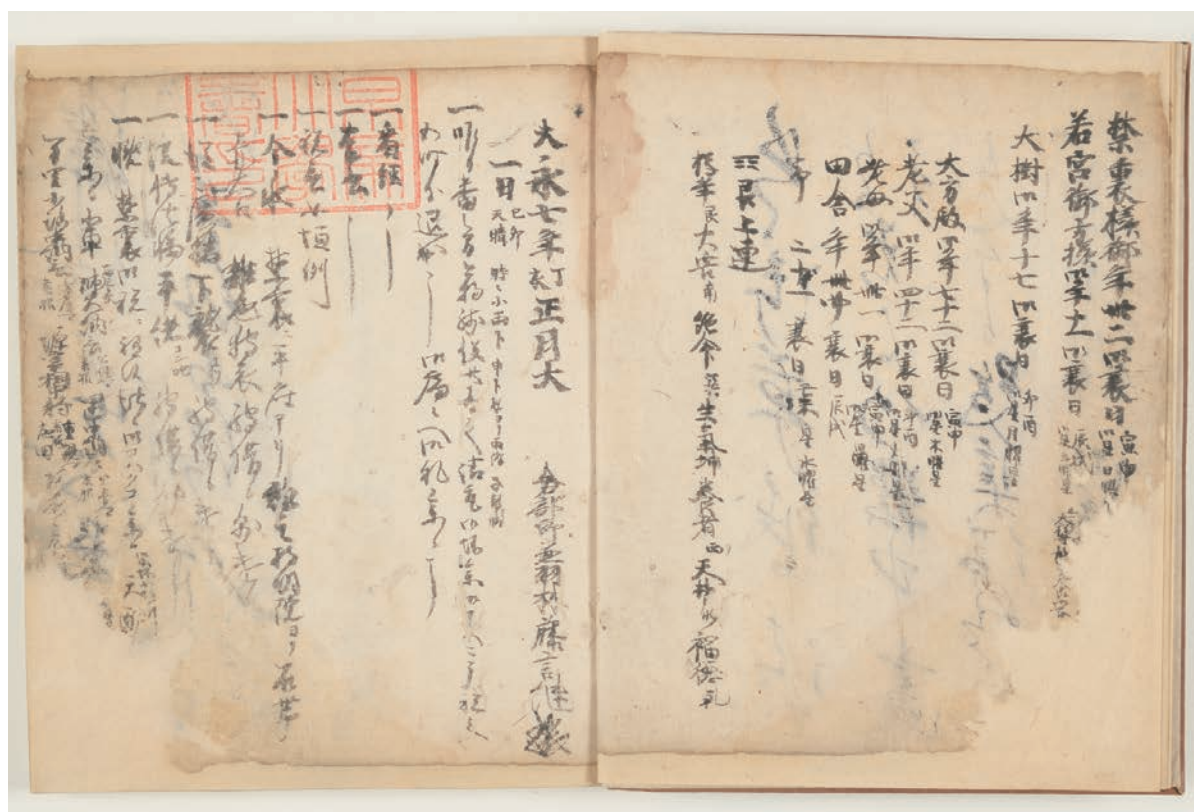
二〇二二年一月一日、国の文化審議会(とぎつ)は本所所蔵「言継卿記」三五冊を重要文化財に指定するよう文部科学大臣に答申をおこないました。

同記は戦国時代の貴族山科言継(二五〇七〜七九)の日記で、大永七年(二五二七)から天正四年(一五七六)のうちの四〇年分が自筆原本三五冊によって伝わります。本所にはこのうち三四冊(大永七年記が分冊され、現在は三五冊)を所蔵し、残る天正四年記一冊(江戸時代に菊亭家に入り、現在は京都大学附属図書館が所蔵)を享保八年(一七二三)に書写した一冊が付属しています。

この日記によって、戦国時代の朝廷や室町幕府の状況、上洛した織田信長の動静、さらには社会・経済・文化の諸相を知ることができます。また、言継が駿河に下向していた時期に書かれたものを除き、ほぼ全紙に紙背文書が存在し、多様な人びとの手になる文書が二八〇〇通以上残っています。

なお、表裏両面にわたる原本の画像は、本所の所蔵史料目録データベースから閲覧が可能です。

(末柄 豊)



「言継卿記」第1冊 [S 貴 42-1-1] 大永7年記(巻首)
現存する日記の最初の部分。記主の山科言継はこの時21歳。